

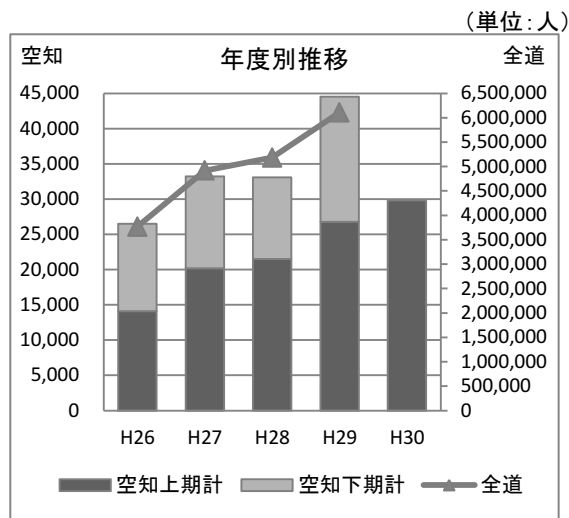
平成30年度上期空知管内における訪日外国人宿泊者数調査結果の概要

平成30年12月27日
空知総合振興局商工労働観光課

※調査対象期間は、H30. 4月～9月です。

1. 概要

平成30年度上期の空知管内における訪日外国人宿泊者数(実数)は、29,802人となり、前年同期の26,776人から、3,026人(11.3%)の増加となった。



(単位:人)

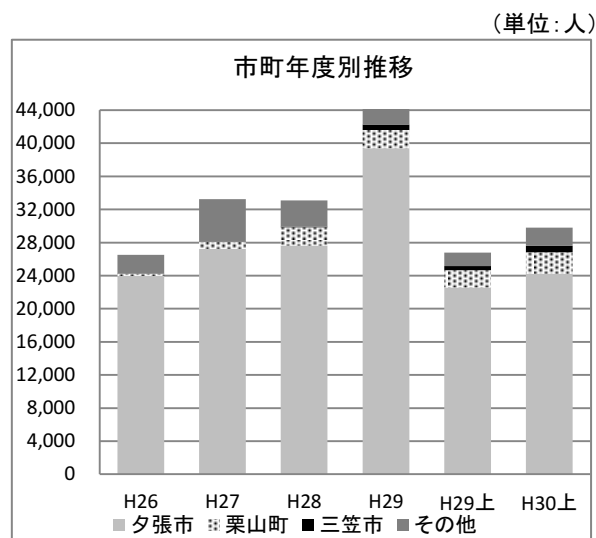
年度	H26	H27	H28	H29	H30	対前年度増減
空知管内計	26,505	33,233	33,099	44,501		
上期計	14,116	20,165	21,510	26,776	29,802	3,026
下期計	12,389	13,068	11,589	17,725		
全道シェア	0.70%	0.68%	0.64%	0.73%		
全道計	3,765,767	4,918,815	5,182,933	6,109,659		

※H30上期全道分は集計中

2. 市町別

管内24市町で外国人が宿泊した市町は、夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、南幌町、由仁町、栗山町、月形町、浦臼町、新十津川町、沼田町の9市7町、計16市町となっている。

また、夕張市が全体の81.4%と、管内外国人宿泊者の大半を占めている。



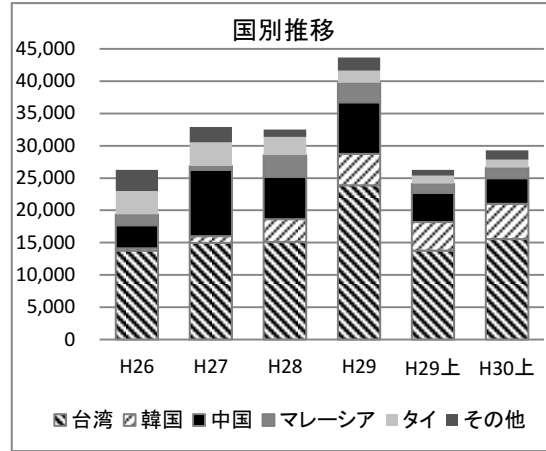
(単位:人)

区分	H26	H27	H28	H29	H29上期	H30上期
管内計	26,505	33,233	33,099	44,501	26,776	29,802
上位3市町						
夕張市	23,967	27,247	27,617	39,395	22,553	24,244
栗山町	268	822	2,220	2,201	2,104	2,582
三笠市	25	23	74	668	497	786

3. 国別

国別で見ると、台湾が15,586人と最も多く、全体の52.3%と半分以上を占めている。次いで韓国が5,402人、中国が3,965人、マレーシア1,666人、タイ1,210人となっている。前年同期と比べると、台湾、韓国、マレーシアは増加した一方、中国、タイは減少した。地域別では、アジア地域が全体の98.3%と管内外国人宿泊者のほとんどを占めている。

(単位:人)



(単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H29上期	H30上期	構成比
台湾	13,771	14,957	15,115	23,878	13,794	15,586	52.3%
韓国	363	1,030	3,515	4,847	4,371	5,402	18.1%
中国	3,564	10,268	6,549	7,980	4,556	3,965	13.3%
マレーシア	1,695	590	3,374	3,050	1,415	1,666	5.6%
タイ	3,589	3,695	2,803	1,850	1,242	1,210	4.1%
上記以外のアジア	3,266	2,381	1,155	2,072	863	1,460	4.9%
アジア計	26,248	32,921	32,511	43,677	26,241	29,289	98.3%
北米	50	49	114	157	102	120	1.7%
欧州	27	42	69	69	28	47	
オーストラリア	6	45	39	34	12	41	
その他	174	176	366	564	393	305	
空知管内計	26,505	33,233	33,099	44,501	26,776	29,802	

4. 月別

月別の状況については、7月が9,881人と最も多く、全体の33.2%を占めている。

(単位:人)

